

### 「お薬手帳を活用しましょう」

薬剤師 藤本 昌子

「お薬手帳を活用しましょう」というお話をしようと思います。

平成20年より当院も院外処方に移行し、入院される方のほとんどが調剤薬局からの薬を持参されるようになりました。

最近は医療も高度化、専門化し複数の医療機関を受診し、薬も多施設のものを服用されている方も多くいらっしゃると思います。

実際、入院されたときの持参薬を見せていただくと、当院からの薬だけでなく大学病院の薬、かかりつけ医の薬と様々な医療機関の薬をお持ちになられる方もいらっしゃいます。

ほかにも健康食品や市販の薬を常用されている方もいらっしゃいます。

お持ちになる状態も、投薬されたときと同じ薬袋に入っているもの、別の薬と一緒に入っているもの、ピルケースに入っているもの、同じピルケースでも薬を裸にむいて入っているもの・・・さまざまです。

今は飲んでいないけど、用心のためといって昔の薬をお持ちになる方もいらっしゃいます。

その方なりの分け方で薬を整理されていると思いますが、実際にどのように服用しているのか？という情報を教えていただくときに実は「お薬手帳」が大変役に立ちます。

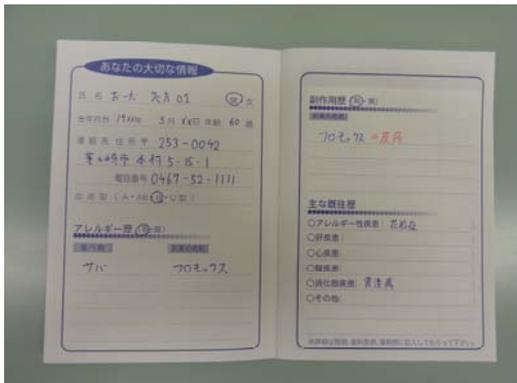


【お薬手帳の一例】

この手帳には、いつ・どの医療機関から、どんな名前の薬が、何日分処方されたか？薬はいつ、どのくらい服用するのか？という情報が書かれています。

「手帳をじっくりと見たことがないから、気がつかなかったわ。」という方も多くいらっしゃると思います。ほかにも、アレルギーや副作用の情報が書かれていることもあります。

実にたくさんのことを教えてくれるのが、お薬手帳なのです。



【アレルギー・副作用の記入欄の一例】

私達薬剤師は入院される方の薬とお薬手帳を見させていただきながら、色々なことに気づかされます。

例えば、手帳では服用していることになっているのに、記載されている薬を持参されていないとか、本当は同じ数だけ残っていないとはいけないのに、一種類だけ多く(または少なく)残っている・・・など。お持ちになった薬と手帳を比べることで解ってくることもたくさんあります。

この様なときに実際にお話をうかがわせていただき、なぜ?ということ解決していきます。

ちょっとした飲み忘れの場合もありますが、全くの勘違いで、間違った飲み方をしていた場合もあります。実は薬が変更となっていたにも関わらず、自宅に前薬が残っていたので、そちらから服用していたため、気づくのに遅れた。などということもあります。

最近はジェネリックに変更される方も多く、名前が違うから別の薬と思って飲んでいただけ、実は同じ成分の薬で、多く飲んでしまった

などということも起こっています。

入院の目的が手術や大きな検査である場合、前もって中止しなくてはいけない薬がある場合もあります。

今服用している薬が他の医療機関からの薬であっても正確な名前がわかっているならば、先生も「この薬は入院の〇〇日前から中止とします。」という指示を出すことができます。

是非、医療機関を受診される時はお薬手帳を一緒にお持ちになることをお勧めします。

また、入院している間に薬が変更となることもあります。その場合、退院の時に薬手帳へ変更した内容を記載させていただいています。

特に変更のあった薬剤、アレルギーや副作用の出た薬剤についても手帳に記載いたします。

また、一括調剤や粉碎など、服用の支援に関する情報も記載いたします。是非、お薬手帳を服薬の記録として利用して下さい。

「お薬手帳を持っていない。」とおっしゃる方は院外処方せんで調剤する薬局ならどこでも作ってくれます。是非ともこの機会に作ってみましょう。

当院で入院中の患者さんは、入院中や退院時に作製しお渡しします。お気軽に病棟薬剤師まで声を掛けて下さい。